

広島市植物公園

見どころ案内

イソギク (キク科)

野生菊のなかまが見ごろを迎えています。イソギクは南関東から東海地方の海岸の岩場に自生する多年草です。チョウセンノギク、ダルマガクなども咲いています。

寒蘭展

(展示温室)

11月11日(土)
~11月16日(木)
東洋蘭の中でも特に清楚で人気のある寒蘭を展示します。

コショウ

(コショウ科)

インド原産の蔓性植物。果実は香辛料に使われ、味は辛い。日本料理でもトウガラシが伝来するまでは、昔から薬味として利用されているものもありました。まだ実は青いですが御覧いただくことができます。

大温室改修のため

休館中

リニューアルオープン
は平成30年春ごろです
(予定)

スズランノキ (ツツジ科)

4月から5月に芳香のある釣鐘状の花を咲かせ、それがスズランノ花に似ていることから名がつけました。世界三大紅葉樹の一つに数えられ、じょじょに色付き始めています。

ニッサ・シネンシス、ニッサ・シルバチカ (ニッサ科)

秋の紅葉が美しく、ニシキギ(休憩展望塔)、スズランノキ(イベント広場)とともに世界三大紅葉樹のひとつに数えられます。寒さが深まるほど鮮赤色に紅葉していきます。カエデ園の紅葉の見ごろもう少し先になりそうです。

シャカトウ (バンレイシ科)

バンレイシの別名で、果実がお釈迦様の頭に似ていることから名がつけました。中南米原産で、4月から6月に薄緑色の花が咲きます。果実は非常に甘く、シャーベットなどに利用されますが、種子は有毒です。

ベニマンサク

(マンサク科)

数少ない、秋遅くに咲く花木の一つで、濃い赤色の花が葉陰に隠れるように咲きます。紅葉と花を同時に見ることができます。

子福桜・三波川冬桜

(バラ科)

秋にお花見...と思われるかもしれませんが、桜が見ごろです。花は小ぶりですが、二季咲きで冬と春の二回楽しむことができます。

特別企画展

「毒と薬は紙一重」

~11月30日

用法や用量によっては毒にも薬にもなる植物を、写真やパネルで紹介しています。

